

世帯数	929	世帯
人口	3,645	人
転入	9	人
転出	4	人
出生	2	人
死亡	1	人

先月と比較して6人減

昨年同月と比較して61人減

■発行 東白川村

■編集 東白川村総務課

■〒 509-13 岐阜県加茂郡東白川村神土548番地

■☎<057478> 3111・内線34

■印刷 益田郡下呂町 下呂印刷有限会社



村成人式が1月15日、村民センターで開かれ72人が大人の仲間入りをしました。今年成人となった皆さんは東京オリンピックが開かれた昭和39年生まれの若者たちです。

成人としての自覚と責任を持つことをお互いに誓い合いました。

華やかな若さあふれる式典会場＝(関連記事9ページ)

— おもな内容 —

- ☐ 新春座談会、うし年生まれ 村の将来を語る……P2～5
- ☐ 第37回青年祭……P6～7
- ☐ 遠くて近い国
- チェコスロバキア③……P8
- ☐ 72人が大人の仲間入り……P9
- ☐ おしらせ……P10
- ☐ 言葉の履歴書……P11
- ☐ 暮らしのカレンダー……P12
- ☐ ふるさとの民具②……P13
- ☐ カメラの目……P14
- ☐ けいじ板はP4～5の下欄

るい村づくり

村の将来を語る



この一月二十一日、村民センターで新春座談会を開催しました。参加されたのは、新年のエトにちなんで村内のうし年生まれの皆さんを中心に、村長を囲んでの座談会です。最初に、総務課企画財政係長から村行政の概要説明があり、続いて村の将来を語り合っていました。

村づくりは まず健康で

司会 皆さんおめでとうございます。本日は新春座談会ということで五つほどのテーマについて皆さんに村の現状や将来について話し合いをしていただくよう計画しましたので、どうか率直なご意見をお願いします。村長 新しい年を迎えましたが本年も相変らず厳しい年となることが予想されます。しかし私たちは、毎日の生活をより快適に過す場として、より豊かで、より温かく、明るさと活力ある故郷として構築していかなければなりません。

出席者 敬称略

安江 友則(上親田)	24歳
沢木 佳美(平)	24歳
栗本 重秋(柏本)	36歳
松岡 成子(陰地)	36歳
田口 勝司(大明神)	48歳
松島あさる(中谷)	48歳
安江 勇(黒淵)	60歳
今井 つゆ(日向)	60歳
安江 麻一(下親田)	72歳
伊藤 美枝(平)	72歳
村長 安江多策	
司会 総務課長 今井哲	

今日は、行政に対する考え方、皆さん方自身の村をどうしていったらよいか、うし年の各年代の皆さんにお集まりいただきました。飾りのない言葉で発言願いたいと思います。



村長 安江多策

司会 それではまず、新年の抱負をひとことずつ伺います。
麻一 今までの経験を生かして米づくりに新しい多収種の品種を取り入れ、たくさん取れる稲の研究に向かって努力したいと思います。



司会 今井 哲

美枝 若い人たちがどんどん村外へ出て行き、年寄りだけの家庭が多くなっています。働けて自分の体を自分で支えていけるうちから健康管理に気をつけたいと思います。

勇 財政の厳しい世の中ですが、基盤整備と道路整備を一日も早く達成していただきたいと願っています。そして、所得のより高い村にすることにより若者もUターンして来ますし、村の人口も増えてくると考えます。
つゆ 体を一番大切にしなければいけないし、主婦の立場を忘れないで家族の健康に留意しなければと思います。今年からはこんなことに気をつけたいと思っています。

勝司 今年には成人病というようなこと、特に健康に注意してゆきたいと思っています。祖父の時代から続いている養蚕を、生糸がかなり安いということもありますが希望を持って続けていきたいと思っています。
あさる 一番下の子供も今年成人し、一応独立しました。これからは、自分たち夫婦の余生を上手に生きたいと思っています。

れにはまず健康が第一と考えています。

重秋 花づくりを始めてから六年になります。今までは手さぐりのような状態で自分たち本来のものでなかったような気がします。植える時期、出荷する時期などガラスの室の中で作るものですから一年中いつでもいいわけですが、そういうことを自分たちで決められる、自分のものにできる、そんな一年にしたいと思っています。

成子 わたしは卒業して五年間だけで働かせてもらい、東白川へ帰って結婚しました。この村が一番住みやすい村だと思っています。まだ子供も小さいですし、まず家族が健康で過ごせることを願っています。

友則 今年こそは自分なりに納得のいく仕事をしたい。そして、仕事と青年団や林業グループ、サークル活動を一生懸命やっていきたいと思っています。

佳美 小学生を対象にした栄養調査をしてみようと思いつき今年「虫歯と栄養」をテーマに研究してみたいと思っています。また、わたしは歯科衛生師として、虫歯のない村になるよう頑張って活動していきたいと思っています。

新春座談会 健康で明 うし年生まれ

ほ場整備後は 収入の多い作物を

司会 それぞれ今年の抱負をお聞きしたわけですが、やはり健康が第一になってくるかと思えます。それでは次のテーマであります。村の今後の課題として現在進めています村づくりについてご意見をお聞かせください。勇 立派なほ場ができたばかりですが、やはり始まったばかりで新しい営農形態を考えて進め

ていくにはまだ時間がかかりそうです。これから皆で相談し合ってお互に身近な農業生産物を考え出す方向で進んでいます。



安江麻一さん

司会 今後の農業の振興につきましては、地域の皆さん方がお考えになっておられると思いますが、やはり基盤を造ることに

よって農業全般の確立ができていくと思います。麻一 やはりほ場整備の後に何を作るか不安です。私が今年作ろうとしているのは陸稲ですが今までの三倍の収量があり、そんなに肥料をしなくてもよく取れるという品種ですが、こんな品種を作ってお金を上げなければ、次の時代を背負う若者が心配しなければならぬようなことでは困ります。

村長 畑総というの、一つの制度の名前であって、畑地帯総合土地改良事業といえます。この制度を村が取り入れたのは、水田より畑地が多いからこの制度が受けられるのであって、必ずしも畑を作りなさいということではありません。畑の少ない地域、例えば大明

神などは水田が多いため二〇％ぐらい畑を作って、畑の面積の方を少しでも多くしていくという事です。むずかしい問題ですが、畑を増やせという意味ではありません。

しかし、米の将来を考えて過剰生産となってきたので、この村は畑作のお茶が成功してある程度よい方向に進んでいますので、それを充実しながら畑作振興、米だけではなく何かと併せて作っていくという考えです。

司会 日向地区は、ほ場整備が終わり先般完成式が行われましたが、以前に比べ機械化や省力化されたことにより農家の余剰労働力がでてくると思われすが、お茶作りとの関連についてどのようにお考えですか。



伊藤美枝さん

つゆ 整備前と比べるとほんとに楽になりました。田の水は見なくてよいし、畦ぬりはしなくてもよいということ、お父さんもずいぶんお茶作りに専念できるようになりました。

水田の面積は減りましたが、昨年は米もよく取れましたし労働面でもかなり楽になったよう

良質材生産 には林道が必要



安江 勇さん

司会 それでは次に林業について伺いたいと思います。村の面積の約九三％が山で、その内杉

ヒノキなどを植えた人口林率が約六七％あります。私たちは森林が施す有形無形の恩恵に欲しているわけですが、よい木を育て、作るということで間伐がされていきます。これらを含めてどのようにお考えですか。

勝司 林業も以前はよかったわけですが、最近の木材の安値。安値というより木材の材質が落ちてきています。やはり林業に對する経済的依存度の高いこの村では、今まで以上に力を入れて良質の木材、東濃ヒノキを育てることが大事だと思います。

司会 林道についてはどのようなお考えですか。友則 やはり山には林道が必要だと思えます。しかし、それには負担金がかかりますので、はたして現在のような木材価格が安

です。

いときに返済していけるのかという不安が残ります。

木材市場へもよく行きますが値がよかった時期に比べヒノキで㎡当たり三万円ぐらい安いという事で、こんな状態で林業をやっているのが不安です。

林道を長期的な目で見れば、山の手入れ、保育、管理していく上でどうしても必要なものです。経費はかかりますが、山の価値は上がるし、利用範囲も拡大されることから必要だと思えます。

司会 良質材生産のための間伐についてはどうですか。



今井つゆさん

重秋 東濃ヒノキなど銘柄材として、よい木を育てるためには必要なことです。現在は森林組合に委託して進められているようですが、丹精込めて育てた木を自分で切るということは、なかなかできないものです。

友則 間伐を行うことは、収益性の高い山林をつくる上で必要です。これからどんどん増えると思います。また、この間伐材を利用して林業グループでは、作業小屋や倉庫などを試作しています。

産地間競争に 打ち勝てる宣伝を

司会 地場産業活性化対策事業
の中で先般、住宅産業関係の木
製品の展示会があり、本村から
も「もっこの会」がインテリア
製品を展示され、好評を博した
ようです。これらを含めた地場
産業について伺います。



田口勝司さん

重秋 林業もそうですが、それ
がよかったか、悪かったかとい
う結論が出るのが、農業などと
違って相当年月がかかるという
ことです。十年先あるいは三十
年先を見越した事業を進めなけ
ればと思います。

それと、いろいろ勉強して始
めるわけですが、一つの産地づ
くりにしても、それを宣伝する
とき、例えば「東濃ヒノキはい
いですよ」だけでは産地として
立ち打ちできるのか問題です。
これからは「東濃ヒノキのこ
ういう所が優れています」とい
った、商品を持長づける宣伝方法
を取って行かないと、この厳し
い産地間競争の中で生き残って

行けないと思います。

商工業も含めた産地づくりは
これからも大事ですが、そうい
った宣伝方法も考えていかなけ
ればいけないと思います。



松島あさゑさん

村長 たしかにそうですね。東
濃ヒノキはいいですよ……だか
ら値が高い、ぜいたく普請であ
るから我々には使えないという
逆宣伝を与え、需要が減ってい
ると思います。

なんでよいのか、どうしてよ
いのか、それと同時に白川茶に
しても高級茶であるというイメ
ージだけでなく、もう少し方向
を変えて、皆で研究していかな
ければなりません。

勇 いままでいる意見と同感で
すが、木を育て製品化するまで
には五十年はかかります。もう
少し生産者が価値を認識し、市
場などをよく研究して開拓しな
ければならないと思います。

勝司 現在は建築様式も変って
きましたし、若い人の好む新建
材を利用したカラフルな洋間が
多くなっています。最近健康産
業という言葉をよく聞きますが、
こういった健康面から見た木造
建築のよさを宣伝したら、もっ

と伸びると思います。

家庭内で 話し合える場を

司会 次に教育問題に入ります。
幼児教育から学校教育、社会教
育とその分野は広いわけですが
それらの教育全般について、ご
発言願いたいと思います。

佳美 都会では国際的な人間づ
くりが進んでいます。この村で
はそこまでは無理だと思います
が、才能のある人たちの芽を伸
ばせるような施設や教育が必要
だと思っています。

あさゑ 私たちの年代になると
家の中にいることが多く、新聞
やテレビを見ても感覚が鈍くな
り、取り残されたような気がし
ます。地域で勉強していけるグ
ループができればと思います。



栗本重秋さん

成子 昨年「地域の子供を語る
会」が開かれ、子供についての
懇談会をもたれましたが、若い
人からお年寄りまで各年代のよ
い意見が出ました。

お年寄りの話を聞くのも参考
になりますので、こういった場

を続けていただきたいと思います。

村長 県民所得が最下位などと
よく言われますが、テレビの一
台もない家はまずないようです。
子供の部屋にも、年寄りの部屋
にも、もともとの私の家には一
台しかありませんが……笑

そういう意味ではなくて、一
日にどれだけの時間を、孫か
ら年寄りまでテレビを囲みなが
ら、またテレビを見ながら話し
合える機会をつくるために一台
しか置いてないわけです。

たとえ三十分でもみんな一緒
に話し合える時間ができること
、食事についても同じだと思
いますが、これは必要なことだと思
います。

美枝 今は子供も少なく、子宝
といいますがほんとに貴重品と
なっています。私たちが育った
時代を思うとほんとに粗末なも
ので、みんなにもまれながら大
きくなったと思います。

孫を見ていて、自分たちがお
さえられて育ったから孫には要
求を十分満たしてやろうという
ことだと思いますが、安易に物
を与えてしまふ。食事にしても
物が豊富にあるから、かえって
より好みをしつて栄養が偏ってし
まふ。そうした子供が大きくな
ったとき、どんなことになるのかと
不安です。

■戸籍の窓 一月〓敬称略



誕生おめでとう
ございます

けいじはん



いつまでも
おしあわせに

(栃山) 安江	隆明	あゆみ
(陰地) 田口	優子	(長女)
(陰地) 粥川	克人	(長男)
(西洞) 今井	幸江	(長女)
	光	(長女)
安江 透守 (日向)		
安江 眞実 (下親田)		
村雲 陽司 (平)		
島倉 一江 (平)		
山見 孝夫 (京都市)		
桂川 充子 (陰地)		
古田 智生 (上親田)		
安江 伸江 (黒淵)		



おくやみ
申しあげます

古田 小松 90歳(久須見)

■善意の寄付〓敬称略

【図書購入指定寄付】

現金二万円―東白川村婦人

老人が自由に 使える施設を

司会 今後ますます人口の老齡化が進んでくると思われますが、老人福祉については、どのような考えですか。

麻一 ゲートボール場のことで、村内にみんなが集って自由に使用できる総合的な場所を造っていただきたいと思っています。



松岡成子さん

勇 年を取っても健康で、楽しみを作って運動できることはよいことだと思います。経費の面でむずかしいかと思いますが、造っていただきたいものです。

美枝 村内には独り暮らしの老人の方が何人もおられますが看護する人がいない場合は、施設に入れるのでしょうか。

村長 近い所では八百津町にあります老人ホームですが、これは本人の希望で入所できます。一人で住んでいて何もできなくなった人には、ヘルパーも毎日に行けませんので、そういった人には勧めています。もう少し近くにあればよいと思いますが。

美枝 やはり、子供さんの所へ行っても周囲に溶け込めず、帰って来られる人があります。年を取ると不用心で心配です。

村の将来は 道路整備が先決

司会 それでは最後に、将来どんな村になることを望みますか。ひとことずつお願いします。

麻一 産業をもっと発展させ、皆がこの村に定着できることを考え、なんとか過疎化を防ぐことが一番大切だと思います。

美枝 一つの村だけではだめですから、近隣町村と話し合ってこういった空気や水のきれいな利点を生かした産業なり企業が誘致できれば、町から若者がUターンして来ると思います。

勇 第一に必要なことは、白川加子母線の道路整備だと思っています。観光開発にしても、地場産業の振興においても、工場に通動するにしても道路がよくなることが一番意義がありますし、堅い鉄則ができると思います。

あさゑ 今まで出ていることと同じですが、それに加えて冠婚葬祭の簡素化を図っていただきたいことと、日曜日に行事が集中しているので、一か月に一度は家族でくつろげる日をつくつ

てもらいたい、それが健康につながると思います。

勝司 所得を上げなければいけないと思うし、若い後継者をいかに育て、村にとどまってもらうか問題です。それには先ほどから出ています道路整備が先決だと考えます。何をするにしても第一のカギではないかと思

います。

つゆ この村の美しい自然を生かした産業や村づくりを進め、活気と魅力に満ちた村にしてほしいと願っています。

重秋 たいへんむずかしいことだと思いますが、余裕のある村にしたい。それと、世界に目を向けて、視野の広い人を育成していくことが大切だと思います。

成子 自分の子供が将来一人でも村内で働ける工場なり職場があつてほしいと願っています。

友則 目的に向かって燃焼できる環境をつくってほしい。そして先に言われたように所得の高い村であつてほしいと思います。



安江友則さん

佳美 村の人口が、数年後に三千八百五十人という数字が資料にでているのを見ましたが、は

たしてそれを保てるのか不安です。将来には、一人一人が誇らしげな人間になれることを望んでいます。



沢木佳美さん

村長 村の発展にいろいろ貴重な意見をありがとうございます。

先ほどもでした冠婚葬祭、工場誘致にしましても、いろいろな条件がありますが、その中で本村の村民性というのは、やはりよそ者を嫌うという一つの島国根性というか、そういう性質がどこかにあります。

農林業を含めた地場産業の振興など、これからある程度人口をとどめ我々の自慢できるふるさとにして行くには、やはり地域ぐるみで、あるいは皆が互いに助けあつて行かなければなりません。お互いに足を引っ張り合い、非難し合っているのは、ちがいがあかない。議会、行政からも率先して、お互い励まし助け合う方向への意識から変えて行こうと考えています。

司会 本日は長時間にわたりありがとうございました。

〔東白川小学校へ〕

写真集「故郷」一冊―増山たづ子（揖斐郡徳山村）

〔五加保育園へ〕

絵本十五冊―古田正子（久須見）、同三冊―今井実郎（下野）、同三冊―土井千代枝（柏本）、手すき和紙十枚―五十川幸司（久須見）

■小学校関係表彰―敬称略

◇書き初め大会（校内）

▽特選 一年―安江しおみ

二年―松岡康文、三年―伊藤孝一、四年―安江里佳、同安江愛美、五年―寺坂勝明、同村雲正隆、六年―齊藤麻倫、同今井範子

◇なわとび大会（校内）

▽一位 一年―栗本忠、同安江ゆきよ、二年―安江忍、同三尾拓生、同安江めぐみ、三年―安江富貴、四年―藤井三弦、同島倉伸貴、同安江さつき、五年―安江規、同安江希和、六年―田口いつみ、同安江万奈美、同今井潤

江万奈美、同今井潤

江万奈美、同今井潤

江万奈美、同今井潤

江万奈美、同今井潤

江万奈美、同今井潤

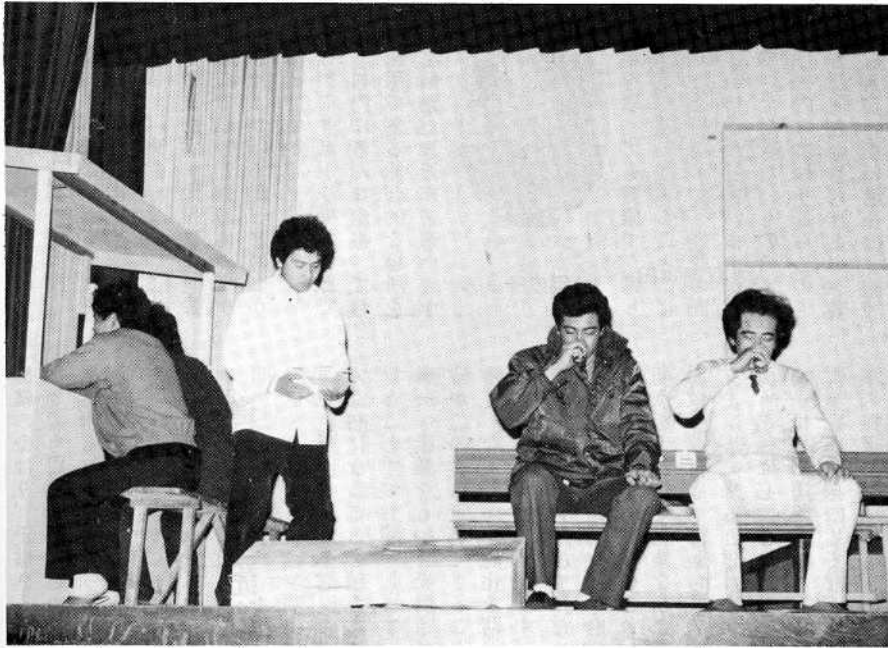
江万奈美、同今井潤

江万奈美、同今井潤

江万奈美、同今井潤

江万奈美、同今井潤

江万奈美、同今井潤



最優秀賞に選ばれ可茂ブロック大会に参加する越原分団の「もしも明日が」

青春像 劇にたくして

第三十七回青年祭

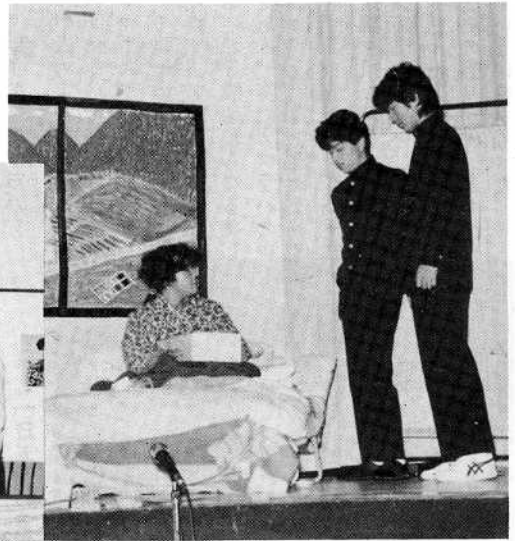
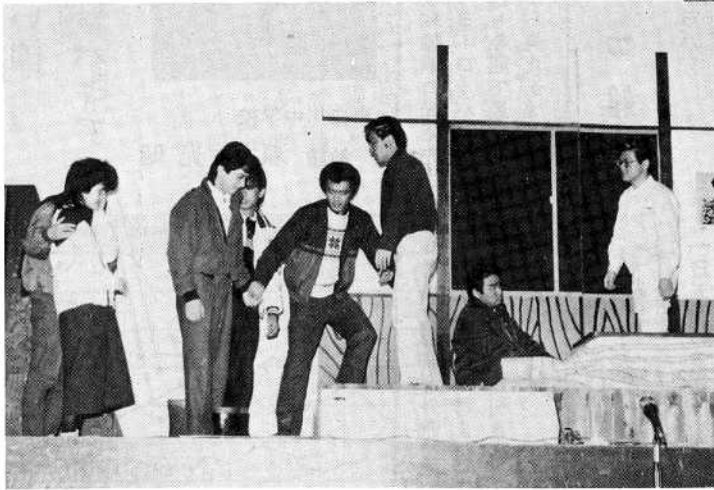
「君は見つけたかちっぽけな青春」をテーマに、青年団（荻田正敏团长以下五十三人）の第三十七回青年祭が一月二十日、東白川中学校体育館で開かれました。演劇は「幸福」（五加分団）、「もしも明日がPART2 愛情物語」（越原分団）、「明日に架ける橋」（神土分団）の順に熱演の末、長男、長女の許されない愛をテーマにした越原分団が優勝、可茂ブロック大会への出場権を獲得しました。また、中学校プラスバンド演奏やしし舞、もちつきなどのプログラムに加え、団員仮装の「一世風靡セピア」が友情出演するなど会場を盛り上げました。審査の結果、最優秀演技賞に桂川公幸（大明神）、安江由起子（柏本）安江任弘（平）の皆さんが選ばれました。

今年も中学校体育館で青年祭が開催されました。数えて三十七回目です。昭和二十三年に復活して以来、東白川青年団の伝統行事として、延々と引き継がれているのです。

開会の時が迫り、団員には「何人くらい観に来てもらえるだろうか」という不安や緊張が募ります。そしていよいよ開幕です。今年も中学校プラスバンド部がすばらしい演奏をしてくれました。中学生と青年の交流は意義深いことです。

疲れよりも満足感に輝いていました。このように、青年のひたむきな努力のもとで青年祭が運営されているのです。このすばらしい舞台裏の青年たちを見ると、その行動力、実行力に力強さと安心感を覚えるものでした。今回は、近年では最も多くの

▽神土分団の「明日に架ける橋」



△五加分団の「幸福」

とは大変なことです。まして創作劇となると、その苦勞は計り知れません。

団員は昨年の暮れから準備に取りかかりました。実行委員会を組織して、プログラムなどについて何度も討議し、各分団は題材を検討し、脚本づくりなどに夜遅くまで取り組みました。そして新年早々から読み合わせ、立ち稽古、それに併行して舞台道具や衣装づくり、効果音や照明の打ち合わせなど連日忙しく動き回り、二十日にこぎつけたのです。

前日は午後から会場の準備です。照明器具の取り付け、暖かく観てもらうために電気ゴタツをたくさん用意しましたがそのための配線工事。女子団員はバザーの準備もあります。おしるこ、もちつきの用意、そして手作りのクッキーも焼きました。夜になって大道具の搬入もしました。

いよいよ青年祭の当日です。朝早くから各係に分かれて最後の準備と点検をします。受付、接待、駐車場、放送、照明、アトラクション、バザー、様々な役割に追われて団員が忙しく走り回ります。控室ではすでに役者のメイキヤップが始まっています。

りました。団員たちは、他分団が劇を行っていても前後の準備や整理に追われ、それを観ることもできません。ビデオテープ



社会教育主事 安江 雅 信

青年祭の 舞台裏から

に収めて、後で観ることにしました。

劇の間をぬって、しし舞い、不用品バザー、もちつき、これはおしるこにして全員に食べてもらいました。そしてクイズコーナーやテレビでおなじみの一世風靡セビアの踊りなどを行って盛りあげ、最後にラッキーカードの抽選も行いました。後片付けをする青年の目は、連日の

皆さんに観ていただくことができ、小中学生も大勢で一日先輩の活動に触れました。このすばらしい青年祭を次回は家族づれで観ていただきたいと思ひます。

今年は国際青年年

急速に変容する社会にあつて青年の地域活動の衰退が指摘されていますが、本村の場合は管内でも最も充実した活動が展開されています。しかし青年人口の減少や団員として活動できる期間が短くなったことなど、多くの問題や障害もかかえています。

折しも今年は「国際青年年」です。これは第三十四回国連総会で決められ「青年の置かれてある現況についての関心を高め、これを改善するとともに社会発展への青年の積極的な参加を促す」ことを趣旨とし「参加、開発、平和」をテーマにしています。今年はこれに関連する事業が国や県のレベルでも計画され、本村の青年団も意欲をもって各種活動に取り組んでいきます。どうか、このようにすばらしい青年団へ一人でも多くの若者が加入すること、その活動への皆さんのご理解とご指導をお願いします。

遠くて近い国 チエコスロバキア



東白川中学校
教諭 瀬口 光昭



東白川中学校教諭瀬口光昭先生が、昨年の文部省海外派遣団の一員として、ヨーロッパの教育事情を視察、研修されました。先生からの寄稿も今回で最後となりましたが、前号に引き続き教育者の立場から見たチエコスロバキアを紹介します。

チエコ雑感

「中世の宝石ブラハ」

中世の宝石といわれているチエコスロバキアの首都ブラハは、ロマネスク、ゴシック、バロックの建築様式の中世の建物が立ち並び、ブルタバ川の谷間と川沿いの丘陵地からなる美しい町である。特に、ブラハの中心地では、近代的な建物は、ほとんど目につかない。町の歴史的な景観を損なわないように計画的な都市づくりをしているとの事であった。日本の京都のように歴史の香りが漂う落ちついた町という印象をもった。

「一日五回の食事」

チエコでは、健康は、栄養を十分とることによってつくられるという考えのもとに、子供たちも、一日五回の食事をするようになっている。だから、学校での休み時間になると、家から用意してきたパンや果物などをカバンから取り出して食べていました。また、昼食は、日本と同じように完全給食が実施されていた。感心したことは、栄養のバランスを考えて果物は、すべて皮ぐるみ食べるように習慣化されていること、そのため

に果物は、生産は減るが無農薬栽培していることであった。

「学用品は日本と同じ」

チエコの学校訪問をするにあたって、日本の学校施設や学用品、服装と比べて、どんな違いがあるのかということも、大きな関心のひとつであった。さて、実際に目にしたものは、日本のそれとほとんど違いがなかった。学用品や机・椅子は日本と同じものでした。服装も、制服はありませんが、私服は、ほとんど日本と同じものでした。体育の服装も上は白のトレシヤツ、下は青や赤のトレパンであった。違いは、女生徒がイヤリングやピアスをしていること、そして、学校施設としてサウナ・シャワーや歯科治療室があることであった。

体制は異なる国であるが、先進国の共通性を強く感じた学校訪問であった。

「飲めない水」

水に出合うたびに、ガイドさんから水を飲まないように気をつけてくださいと言われる。のどが渴けば、どこでも水が飲める生活に慣れている日本人にとって、まことに不都合である。昔から水と塩さえあれば、人間は生きていけると言われる。この貴重な水に恵まれている日本は、本当に自然の恩恵を受けた国であると感じました。近年、自然破壊が目立ち、社会問題になっていきますが、もう一度、自然の尊さを認識すべきだと思います。

以上で、海外研修の手記を終わらせていただきます。



ブルタバ河畔からブラハ城を望む
(首都ブラハ)

交通事故

無料相談

お気軽にどうぞ！

被害者にも、加害者にも大きな負担をもたらすいまいましい災害、自動車事故は決して起こしてはならないものです。

しかし、もし起きてしまったら……そんなときは迷わずお電話またはお越しください。

日本損害保険協会では「自動車保険請求保険センター」を設置して、強制保険（自賠）任意保険を問わず、自動車保険の請求について、専門の相談員が親身になって相談に応じています。また、同相談センター委嘱の弁護士が複雑な法律上のご相談にお答えしています。

相談は一切無料ですので、お気軽にご利用ください。

☆ 開設場所

▼ 社団法人日本損害保険協会
岐阜自動車保険請求相談センター

▼ 岐阜市金町八丁目二〇 パレ
ワシントンビル七階

▼ ☎ 〇五八二一六三・七〇〇一

▼ 平日 9時30分～16時40分

▼ 土曜日 9時30分～12時

▼ 弁護士相談日 第二、第四水曜日 13時～16時

岐阜県知事選挙

投票率は75.84%



開票風景＝村民センターで

晴れやかな社会人へのスタート

七十二人が大人の仲間入り

一月十五日は「成人の日」。今年は昭和三十九年四月二日から昭和四十年四月一日までに生まれた人たちが新成人として晴れやかに成人式を迎えました。昭和二十三年にスタートしたこの「国民の祝日」も今年で三十七回目。社会への「門出」を祝う「成人式」は、大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を励ます行事として定着してきました。村では、この一月十五日に新しく大人の仲間入りした七十二人を招いて祝賀行事が行われました。

記念式典は、午前十時三十分から村長をはじめ議会議員、青年団長、婦人会、PTAなどの関係者と、新成人が村民センター大集会室に集まり開会されました。

めでたく大人の仲間入りした新成人は、次の皆さんです。

(敬称略)

【大口】今井照善

【陰地】今井繁人、今井修三、大坪浩之、安江るみ、安江克子、安江ゆかり

【平】安江修治、古田貢一、村瀬智宏、中丸悦子、古田そのみ

【栃山】安江彰男、安江嘉男、安江良修、笹俣浩志

梅田敦子、田口五実

【黒淵】桂川暢祥、高木由香、安江章江、高井真里子

【下親田】大坪久好、村雲辰善、安江忠広、有田尚樹

【大明神】安江茂夫、田口智輝、安江透雄、田口優子、田口悦代、安江加代子、熊沢はるみ、安江一二美

【上親田】古田吉己、安江元樹、早瀬豊、古田辰夫、古田精子、安江加代子

【柏本】栗本正喜、安江敏之、今井光文、古田建、今井睦、桂川江利子

【中通】村雲春己

【宮代】安江久美子、【大沢】今井英史、小倉智恵美、小倉比登美

【神付】田口博男、村雲修、安江哲子、安江美華

【西洞】河田孝、今井嘉徳、樋口智美

【中谷】松島謙次、今井小百合、樋口ちせ子

【曲坂】今井恵美、菊田明子、菊田久美、高木美佐子

【日向】安江三千代、安江圭子

【久須見】古田大作、古田正広、熊崎美智代

【西洞】河田孝、今井嘉徳、樋口智美

【下野】今井克幸、古田正貴、熊崎美智代

【曲坂】今井恵美、菊田明子、菊田久美、高木美佐子

【日向】安江三千代、安江圭子

【神付】田口博男、村雲修、安江哲子、安江美華

【宮代】安江久美子、【大沢】今井英史、小倉智恵美、小倉比登美

【中谷】松島謙次、今井小百合、樋口ちせ子

【曲坂】今井恵美、菊田明子、菊田久美、高木美佐子

【日向】安江三千代、安江圭子

【久須見】古田大作、古田正広、熊崎美智代

【西洞】河田孝、今井嘉徳、樋口智美

【下野】今井克幸、古田正貴、熊崎美智代

【曲坂】今井恵美、菊田明子、菊田久美、高木美佐子

【日向】安江三千代、安江圭子

【神付】田口博男、村雲修、安江哲子、安江美華

【宮代】安江久美子、【大沢】今井英史、小倉智恵美、小倉比登美

【中谷】松島謙次、今井小百合、樋口ちせ子

【曲坂】今井恵美、菊田明子、菊田久美、高木美佐子

【日向】安江三千代、安江圭子

【久須見】古田大作、古田正広、熊崎美智代

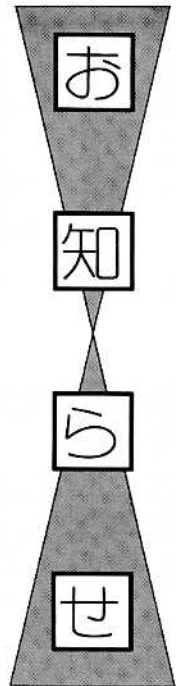
有効投票 二、〇〇一
無効投票 二四
【有効投票の内訳】
上松陽助 一、七八七
杉原恭三 二二四

投票所	有権者数	投票者数	投票率
神土	882人	694人	78.68%
神付	334	253	75.75
越原下	539	378	70.13
越原上	440	322	73.18
五加	475	378	79.58
東白川村計	2,670	2,025	75.84
加茂郡計	44,718	33,559	75.05

岐阜県知事選挙は一月七日に告示され一月二十七日に投票が行われました。本村も五か所の投票所で午前七時から投票が開始されました。朝からの冷え込みで出足が心配されましたが有権者の皆さんの認識と意欲に支えられて、最終投票率は前回の知事選挙（昭和五十七年二月）の八〇・五九%を下回ったものの七五・八四%と加茂郡平均よりやや上回る成績でした。

岐阜県知事選挙東白川村
開票区開票結果

投票総数 二、〇二五



歳末たすけあい募金 九十三万九千円に

共同募金会東白川分会が中心となつて行つた歳末たすけあい運動は、たくさんの方々の例年と変らぬ深いご理解と温かいご協力により、ほぼ昨年並みの九十三万九千円となりました。お寄せいただいた善意の結晶は、昨年暮れに民生委員の皆さまが、

んが、本村からの入所者がある福祉施設などを訪問して慰問の金品として贈られたのをはじめ、十二月中に村内の恵まれないかたがたに慰問金として届けられました。ご協力ほんとうにありがとうございました。『善意』をお寄せいただいた多くの皆さんに紙面をもつてお礼申し上げます。募金内訳と配分明細は、別表のとおりです。

歳末たすけあい (単位:円)

募金内訳	
組長扱い	527,981
職場、団体、サークル	211,224
事務所	98,356
個人	92,299
社会福祉協議会積立金より	9,140
総計	939,000
配分明細	
生活保護世帯 (6世帯)	74,000
準生活保護世帯 (14世帯)	129,000
重度心身障害者 (35人)	195,000
福祉施設入所者 (14人)	76,000
長期入院者 (9人)	52,000
母子家庭 (15世帯)	111,000
ねたきり老人 (20人)	102,000
独居老人 (25人)	125,000
施設配分 (7施設)	75,000
総計	939,000

NHK学園通信教育 あなたも学習を

NHK学園では、通信教育の生徒・受講生を募集しています。

○高等学校 普通科コース

NHKの放送を利用して、働きながら高校卒業資格をとりたいたかに

入学資格 中学校卒業・卒業見込みまたは同等以上の学力のあるかた

受付期間 3月1日～4月15日

○高等学校 教養コース

高等学校レベルの知識と教養を身につけたいかたに

入学資格 15歳以上のかたなら

受付期間 3月1日～4月30日

○社会通信講座

この講座の利点は、レポートの添削が中心で、だれでも自宅にいながら、都合のよい時間に自分のペースで学べます。

講座は 書道、硬筆、楽しい母と子の書き方、俳句、短歌、古典、文章、絵画、囲碁、簿記、英語、ファミリー写真、数学、国語の15講座44コースがあります。ほかに、俳句友の会もあります。

受講資格 どのような

受付期間 2月1日～4月20日

受講資格 どのような

受付期間 2月1日～4月20日

受講資格 どのような

受付期間 2月1日～4月20日

受講資格 どのような

受付期間 2月1日～4月20日

受講資格 どのような

受付期間 2月1日～4月20日

受講資格 どのような

受付期間 2月1日～4月20日

受講資格 どのような

受付期間 2月1日～4月20日

受講資格 どのような

○詳しい案内書をご希望のかたは、普通コース・教養コース・社会通信講座名と氏名、住所、電話番号を書いてハガキでご請求ください。(案内書は無料)

岐阜市京町二一十

500 NHK岐阜放送局

〒 NHK学園CT係

電電奥さまモニター の募集

電報電話サービスに関するご意見、ご要望をお寄せいただくモニターを、次のとおり募集します。

○モニター期間 昭和六十年五月～八月

○応募資格 県内在住の女性、未婚者も可(電電公社職員と家族は除く)

○委嘱料 三万円(月額七千五百円)

○応募方法 「新電電に望むこと」というテーマで四百字詰原稿用紙で一～二枚にまとめ、住所、氏名、年齢、職業(世帯主と本人)、家族構成、自宅の電話機の種類と台数、連絡先の電話番号を記入して提出。

○締切り 昭和六十年三月二十五日

○発表 昭和六十年四月下旬に応募者全員に通知

○発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

発表 昭和六十年四月下旬に

○応募先 美濃白川電報電話局業務課(☎〇五七四七二一一四〇一)

山を火事から 守ろう

今年も二月二十八日から三月十四日までの二週間、全国火災予防運動を行います。前半の一週間は、山火事予防週間でもあります。

春先の野山には、枯れ草や落ち葉など燃えやすいものがたくさんあります。さらに空気が乾燥し、風の強い日が続くなど、山火事の起こりやすい条件がそろいます。

一年間に起こる山火事の大半は、二月下旬から五月にかけての春に集中しています。一度火を出すと、なかなか消えにくく自然という貴重なみんなの財産を失うことにもなります。

山火事の原因は、たき火、たばこの火の不始末、子供の火遊びなどがほとんどです。これから植林、山菜採りなど山に入る機会も多くなります。恐しい山火事を起こさないよう、一人ひとりの注意が必要です。

統一スローガンは「小さな火まさが起こす山の火事」です。

フォト&エッセーの部 文部大臣奨励賞に輝く



東白川中3年
今井 誠くん＝神付

全国の小・中・高校生から募集された朝日新聞社主催、文部省など後援、福武書店協賛の「小中高生の作文、小論文、フォト&エッセーコンクール」の三部門の審査が、昨年暮れに行われ、東白川中学校三年、今井誠くん（神付＝今井直道さん長男）の作品（我が村）がみごとフォト&エッセーの部で文部大臣奨励賞に輝きました。

表彰式は、この一月二十六日に朝日新聞東京本社で行われ、

今井くんが出席して、受賞しました。今井くんは夏休みの課題作品をこのコンクールに応募したもので、村内の共販所や製材所を訪ねてシャッターを切り、山の本が伐採されてから建材になるまでを五枚の組写真にまとめあげたものです。

小学校五年生ごろから、家にあったカメラで撮り始め、中学二年生になったころから本格的に被写体を考えて撮るようになった。しかし、現在はそのカメラも壊れて、近くの叔父さんから借りて撮っているとのこと。

そのカメラも長くは借りておれないため、学校帰りなどに見た被写体をメモしておき、日曜日など学校が休みになってから叔父さんから借りて、まとめて撮っている……と語ってくれました。

題材は、この村の豊かな自然が主で、身近な風景から小動物が多く、今回の入賞作品も整然と立ち並ぶ東濃ヒノキの林、製



今井誠くんの作品「我が村」＝5枚組写真の1枚

材所で見せる鮮やかな木の年輪、真新しい住宅などを、素朴な組写真に仕上げています。今井くんは、エッセーの中で「この土地の利点を生かして林業や製茶業、養蚕やその他の地場産業に力を入れて、自分たちらしい村にしています。自分らのものというものは、なんとなく自慢できるような感じがあります」と書いています。兼業農家の長男である今井くんは「高校を出たら都会へは出ず、家業を継ぐつもりです」と語ってくれました。

地団太を踏む

入試や就職がうまくいけば大喜びですが、失敗して「地団太（駄）を踏む」人も少なくありません。

この「地団太を踏む」は、ひどくくやしかったり、腹を立てたときに使う表現で「地たたらを踏む」からきたとされています。

「たたら」は鋳物を作るときなどに用いる大型のふいこのこと。足で踏んで空気を送る装置です。

「たたら吹き」といえる日本古来の製鉄法で、たたらで炉に風を送って日本刀などを作るものです。

「たたらを踏む」はその足の動作から、強く突いたり打ったりしたときに目標がはずれ、勢いあまって空足を踏むこともさすようになりました。

そして「地たたらを踏む」は怒ったり残念がって、地面を両足で激しく踏みつけること。その様子が「たたらを踏む」のと似ていたからです。

その「地たたらを踏む」から「地だだを踏む」に変わり、やがて今使われている「地だんだを踏む」に落ち着いたというわけですね。

第五世代コンピュータ

一九九〇年代の初頭に実現を目指す革新的な知識情報処理指向のコンピュータのこと。

コンピュータの進歩には「世代」という表現が使われていますが、真空管時代を第一世代、トランジスタ時代を第二世代、IC（集積回路）時代を第三世代、LSI（大規模集積回路）時代を第三・五世代とすると、現在は第四世代の超LSI時代に相当します。

第四世代までのコンピュータは、数値計算や事務処理は得意ですが、人間のようには複雑な状況を自ら判断し、解決していく能力には限界があるため、今後の高度化・多様化する情報処理ニーズに對し、十分な対応ができなくなる予想されます。このため「問題を解く」「推理する」「学習する」「言葉を話し理解する」などの知的機能を持ち、従来とは根本的に異なる技術方式を用いた第五世代コンピュータの開発が待たれます。昭和五十七年度から通商産業省のバックアップで財団法人「新世代コンピュータ技術開発機構」が設立され、研究開発が進められています。





新しく生まれ変わったほ場で完成式＝日向地内

日向地区が ほ場整備終え完成式

五十六年度から進められていた越原日向地区（日向平、日向大林洞）のほ場整備事業がこのほど完成し、一月十八日午後三時から関係者が集って完成式が行われました。

このほ場整備事業は、同地区が初めて、五十六年度から三年をかけ三地区に分けて進められていたもの。受益者三十五人で、区画整理された面積十四・三畝。従来平均区画二・三畝の狭い農地が標準一五・二十畝に画一され、総事業費は一億五千三百万円。また、この工事を記念して工事業者らの寄付で「整田之碑」が建てられました。

トピックス

……汽車に乗って三時間半で湯原県の銀行に着き、日本から送っていただいたお金二百八十元をいただきました。中国に残った私たちは楽しい生活をして

トピックス

……汽車に乗って三時間半で湯原県の銀行に着き、日本から送っていただいたお金二百八十元をいただきました。中国に残った私たちは楽しい生活をして

トピックス

た。同級生の皆様、東白川の皆様のおかげで中国でうれしい楽しい正月を迎えます。私は六人の子供と一緒に最後まで中国で頑張ります。

……宏子



いつまでもおしあわせに
(雪ちゃんと陳宝林さん)

中国からのたより

おめでとう雪ちゃん

今から十年前の昭和五十年十月に中国から三十二年ぶりに安江宏子さん、雪ちゃん親子が里帰りされ、約六か月間滞在されたことは記憶に新しいことと思います。その宏子さんから便りが届きましたので、その一部を紹介いたします。

……汽車に乗って三時間半で湯原県の銀行に着き、日本から送っていただいたお金二百八十元をいただきました。中国に残った私たちは楽しい生活をして

暮らしのカレンダー

※高血圧健康教室

- ・とき 3月1日
 - ・ところ 村民センター
- 血圧の治療中の人。

※中学校PTA総会

- ・とき 3月3日
- ・ところ 中学校

※高血圧予防教室

- ・とき 3月6日
 - ・ところ 村民センター
- 血圧が上昇傾向にある人。

※三代交流事業

- ・とき 3月20日
- 村民センターに村内の独居老人をお招きし、食改協推進委員や民生委員がお世話をします。

※中学校卒業式

- ・とき 3月13日
 - ・ところ 中学校体育館
- 数々の思い出と新たな希望を胸に、61人が巣立って行きます。

※不燃物収集

- ・とき 3月14日
 - ・ところ 村内各集積場
- ガラス類、金物類に分けて世帯主の住所、氏名を必ず書き前日の夕方までに出してください。

※成人病予防推進員研修会

- ・とき 3月15日
- ・ところ 村民センター

※消防団入退団式

- ・とき 3月24日
 - ・ところ 総合運動場
- 長年にわたり消防団活動に尽くされた21人が退団、新進気鋭の21人が入団します。

※小学校卒業式

- ・とき 3月25日
- ・ところ 小学校体育館

※小・中学校終業式

- ・とき 3月26日
- ・ところ 小・中学校体育館

※所得税の確定申告

- ・とき 2月16日～3月15日
 - ・ところ 村民センター
- お早めに、相談会場へ。

今月の図書



女優貞奴

山口 玲子著

女優貞奴は、日本を発つ時は落ちぶれた河原乞食の川上音二郎の妻貞でしたが、世界的女優貞奴となって帰国しました。

かって役者は男の仕事でしたので役づくりはむずかしく又、明治の世は女優の存在を激しく排斥していました。

その中で生まれながらに賢く美人だった彼女は、明治の元勳たちに愛され又、努力家だったので女優の先駆者になり得たと思います。

自らに与えられた運命を強靱な意志をもって生きた女の一生を描いています。

NHK大河ドラマ「春の波濤」に登場しています。晩年鶴沼に貞照寺を建立しました。

あなたが一番

花田 憲子著

著者は元大関貴の花、現在の藤島親方の夫人です。

女優を目指していた憲子さんですが慣れない相撲界に突然入って、おかみさんに徹するまでに、ずい分苦労がありました。それでも明るく、可愛らしく、親方を心から尊敬して、手を取り合って頑張ってきました。このような愛に支えられて土俵に臨めた親方はさぞ心強かったことでしょう。

この本は勝負師の妻の気持ちがよくわかり、内助の功が描かれています。

一家を支える主婦におすすめしたい1冊です。



ふるさとの民具 ②1

肥松(こえまつ)と松明(たいまつ)



まだ電灯を用いる以前の時代の照明には、燃料としてマツの「アカシ」、なたね油などを用いました。その中でマツを使つたものに、肥松と松明があります。

肥松は、マツの幹や根の樹脂の多い部分、すなわちアカシを細かく割つたもので、石や鉄製の灯台で焚(た)いて灯火としました。アカシを焚くと火先から真っ黒な油煙が立つて、そばにいる者の鼻のあたりが黒くなりました。そのわずかな光の下

で、縄をなったり、草履(ぞうり)を作ったりしました。また足袋の底のつくろいなどとしたものです。

肥松は、古くは「続松」または「都以末都」と書いて「ついまつ」とよびました。東白川村では、盆の精霊の迎火や送火に肥松の名残りをわずかにとどめているようです。

松明は、萱(かや)、芋殻(おがら)、枯れ草、竹などを手ごろの大きさに束ね、その先端に点灯し、手に持って照明とする

ものですが、その材料は、マツの割り木が最も多かったようです。

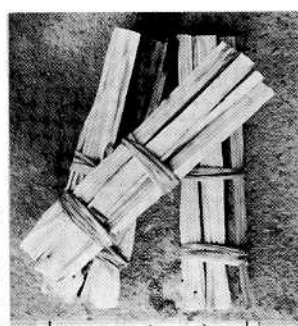
手に持つ灯火のことを、古くは、「乗炬」、「手火」と書いて「たび」と読みました。日本書記には、伊邪那岐之命(いざなぎのみこと)が黄泉国(よみのくに)で湯津爪櫛(ゆつのつまぐし)の雄柱を折って乗炬とした話がみえ、万葉集には、志貴親王(しきのみこ)の葬儀に人々が手火を持って送る光景が詠まれています。

「たび」は、後世になって「炬火」、「松明」、「焼松」、「焚松」などと書いて「たいまつ」と読むようになりました。

松明は、夜間戸外で用いる灯火で、宮廷、武家をはじめ民間

の儀式、軍陣、葬送などに広くそして永く利用されました。東白川村で、今もって葬列の出発に松明を焚くのも、この名残りでしょうか。

さて、「たいまつ」の占(うら)という言葉があります。松明を投げて、火が消えれば凶、消えなければ吉と占うことです。



かつては照明として使われ、今では儀式に名残りをとどめる松明

今月の料理



豚肉と切り干し大根

のいため物

【材料】四人分 豚薄切り肉 百五十^{グラム}、切り干し大根五十^{グラム}、にんじん五十^{グラム}、赤とうがらし一本

【作り方】①豚肉は細切りにし油、しょうゆ各少々を振って下味をつける。②切り干し大根は水につけてやわらかくもどし、水けをしぼる。③にんじんはせん切り、赤とうがらしは種をのぞいて薄い輪切りにする。④なべにサラダ油大さじ二分の一を熱して赤とうがらしをいため、豚肉を加えていためる。

肉の色が変わったらサラダ油大さじ二を足し、切り干し大根、にんじんを加えてよくいためる。⑤全体に油が回ったら塩小さじ三分の一、こしょう少々、酒大さじ一と二分の一、しょうゆ大さじ一と二分の一を加え汁を吸わせるようにいためあげる。

※ゆでて刻んだ大根の葉を散らしてもよい。

競争で手作りのかるたを取りに行く園児たち

カメラ
の
目

神土保育園で かるた取り大会

神土保育園では、1月18日遊戯室でかるた取り大会を行いました。最近ではコンピューターゲームが普及し、こうした昔からの伝統的な遊びがほとんど見られなくなり残念なことです。

当日は、先生の手作りで画紙に描かれたかるたを、年少組から年長組までそれぞれ分かれ、次々と読みあげる絵と字を見て一斉に競争で取っていました。

さすがに、年長組は取るのが早く、25枚取った子もありがんばっていました。

今井明子ちゃん（一歳〃宮代）
建夫さん・美幸さん長女



すくすく育て

おにのえ
やすえまさとし（六歳〃栃山）
越原保育園



子どもの作品



あなたの作品
をお寄せください。
・初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。
・毎月末までに、神土田口良三宛に出してください。

○成人の夜の杯を子に差しつ母亡き後の一言を寄す

土砂流の泥土の下に猶眠る人ありて雪の王滝村は

お、母も母も供へし小豆粥われも炊かなむ小正月の朝を

年祝ぎの会を兼ねたる互礼会白寿の媿の生命眩ゆし

○黄の頭布ふかくかむりて相撲する園児の肩に小雪舞ひ散る

薄ら氷の張りめぐらせる池の中何の小鱼か透きて揺れみゆ

七草を「七草なすな産土の鳥が」と囃し刻み呉れたる亡き父偲ぶ

獣めくバックホーンが終日を喰りて橋の掛け替へ急ぐ

○寒登拌雲一つなき青空に白銀の嶺おごそかに在す

初売りの福袋欲しとせがむ孫疲れし嫁も重き腰上ぐ

湖を染めものみな茜しづもりて元日の陽は傾ぶき初めぬ

家裏をコンクリートに埋め立てて望み叶ひぬ寒中なれど

○刈り残し茎のみ白き骨すすき面目もなし前田の畦に

睦月あさ震ふ体に鞭あてて今朝も走りぬ五キロマラソン

○文楽の人形の如きわが瘦軀支へられつつ廊下を歩む

おのがじし雪振り落し若杉の縞なす列に陽は照り添へり

正 誤

十二月号の安江すみとさん作は村雲うめさん、うめさん作は安江幸さん、幸さん作は安江武子さんでした。作者名のズレがあったのでつしんで訂正致します。

安江 香

田口 巽午

安江 幸

今井 良吉

田口 一枝

田口 恵津

伊藤 美枝

安江 澄

安江 竜玉

安江 節子

今井 かな

安江 すみよ

村雲 うめ

安江 守平

村雲 伝三

田口 良三